

One program for Global Goals

OGGS

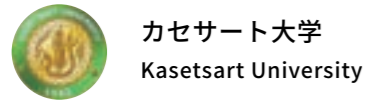
2025



世界とサステイナビリティを考える。
キャリアのピースがここにある。

Program Guide

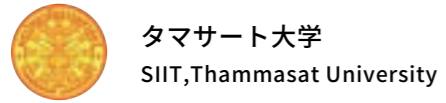
OGGsパートナー大学



カセサート大学
Kasetsart University



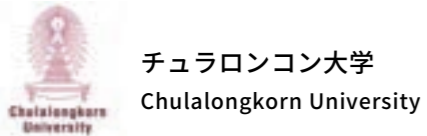
バンドン工科大学
Institut Teknologi Bandung



タマサート大学
SIIT, Thammasat University



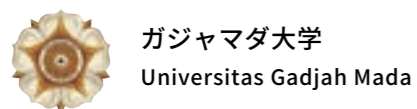
ボゴール農業大学
IPB University



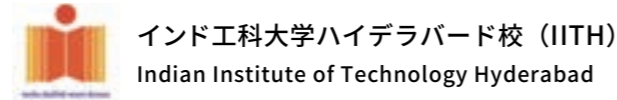
チュラロンコン大学
Chulalongkorn University



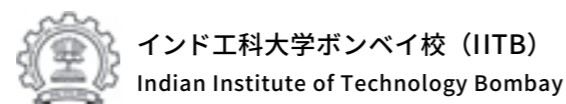
マヒドン大学
Mahidol University



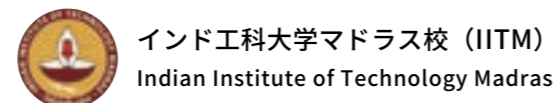
ガジャマダ大学
Universitas Gadjah Mada



インド工科大学ハイデラバード校 (IITH)
Indian Institute of Technology Hyderabad



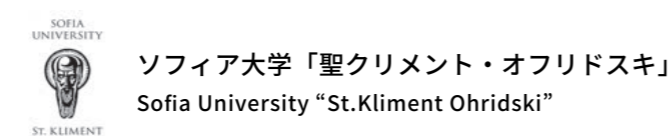
インド工科大学ボンベイ校 (IITB)
Indian Institute of Technology Bombay



インド工科大学マドラス校 (IITM)
Indian Institute of Technology Madras



ヘルシンキ大学
University of Helsinki



ソフィア大学「聖クリメント・オフリドスキ」
Sofia University "St. Kliment Ohridski"

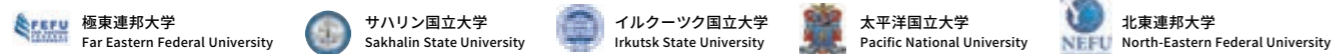


アラスカ大学フェアバンクス校
University of Alaska Fairbanks



スウェーデン王立工科大学
KTH Royal Institute of Technology

※ロシアの大学との組織的な交流は当面休止しています。



CONTACT お問い合わせ



北海道大学 学務部国際交流課
OGGsセントラルオフィス
〒060-0815
札幌市北区北15条西8丁目学生交流ステーション1F 109室

TEL 011-706-8014

OGGs oggs@oia.hokudai.ac.jp
PARE goo@oia.hokudai.ac.jp
NJE3 RJE-3@oia.hokudai.ac.jp
STSI stsi@eng.hokudai.ac.jp

WEB <https://oggs.oia.hokudai.ac.jp/>



応募方法を
チェック!



SNS



OGGs - One program for
Global Goals



@oggsprogram



HOKKAIDO
UNIVERSITY



CONTENTS

- OGGsとは P2
- 3つのコース P4
- 履修モデル P6
- 応募方法と資格 P8
- 学生支援 P9
- 科目概要 P10
- 履修スケジュール P17



この経験が、私を変える



グローバル化が加速的に進んだ現代社会では気候変動や多様性への理解など一つの国や対策だけでは解決できない課題が山積しています。

Sustainable Development Goals (SDGs) が描く持続可能な社会すなわち、地球が誰にとっても暮らしやすく在り続けるためには価値観や文化的背景が異なる、多様な国・地域・組織の人々と連携・協働する必要があります。



One program for Global Goals(略称OGGsオグズ)は持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成を目指して創設された大学院生を対象とする国際共修プログラムです。

地球規模の課題を取り上げるため、様々な専門領域の教員と多様な関心を持った学生が参画する、分野横断性に特徴があります。

オグズ

OGGsプログラムとは？

OGGsプログラムは持続可能な社会の実現に向けて

何をすべきか、何ができるか、を考える

分野横断型の国際共修プログラムです。

世界の課題解決に貢献することを目指す北海道大学では、持続可能な社会を実現するために、多様な国・地域・組織の人々と連携・協働できる人材を育成しています。

OGGsプログラムを通して、自分の生まれ育った社会とは異なる社会、文化、価値観や環境にある人々と理解しあいながら、より良い未来を目指して協力し課題を解決していく力を身に付けます。



「基礎プログラム」と「発展プログラム」

OGGsプログラムは2段階で構成されています。

トランスファラブル・スキル*を身に付けます。

基礎プログラム

海外パートナー大学の学生と講義やグループワークを含む演習などの集中講義を英語で履修し、世界各地の課題や多様性について学修します。
国際経験科目には、海外派遣を伴うものと、国内フィールド実習があるので、国内受講のみで修了することも可能です。

留学先特有の課題を理解し、自己の専門性を向上させます。

発展プログラム

中長期の留学により、パートナー大学で専門科目を履修し、受入指導教員による研究指導を受けて自己の専門分野の研究を深めます。

*トランスファラブル・スキルとは？

大学院での研究には高い専門性が求められますが、現実社会では専門家ではない人々との仕事が必要になります。専門外の人にも解りやすく伝えるコミュニケーション力など、様々な仕事や業務に転用できる能力は、トランスファラブル・スキルと呼ばれており、OGGsでは7つの能力を設定しています。

OGGsプログラム参加を通して身に付く

7つの能力



Skill 1 課題抽出・解決力

Skill 2 知性と一般教養を研鑽する意欲と能力

Skill 3 英語など、母国語以外の言語を自在に使う能力

Skill 4 コミュニケーション能力

Skill 5 組織やチームに貢献する能力

Skill 6 多文化理解と異分野融合展開力

Skill 7 デジタル技術を駆使する能力

7つのコンピテンシーに係る
OGGs科目共通ルーブリック評価レベル

OGGs3つの 評価対象能力	7つの能力	レベル0 問題行動・指示待行動	レベル1 一般的な行動	レベル2 主体的行動	レベル3 独自の行動
課題抽出・解決力	1 課題抽出・解決力	自分で課題を見つける意欲と能力が乏しい	自分の知性と一般教養と専門知識を駆使して、現状の課題を見つけることができる	現状の課題を解決することで達成される、あるべき将来像を描くことができる	将来像にいたる道筋を具体的に提示し、その道筋にしたがった活動を計画的に展開することができる
	2 知性と一般教養を研鑽する意欲と能力	自分を成長させる意欲と能力が乏しい 新しい難題に挑戦する意欲が乏しい	自分の専門能力を研鑽する意欲と能力がある 自分の知識と経験を越えた難題に立ち向かうリスクを認識できる	専門性を超えて、幅広い分野に関する知識や技術を習得する意欲と能力がある リスクを正しく認識しつつ、その難題を成長の機会と捉えることができる	慣習や自分の意見に固執せず、柔軟に新しい考え方を習得することができる 取り組むと決めたならば、失敗を恐れず、困難を乗り越え、責任を全うする意志がある
国際コミュニケーション力	3 英語など、母国語以外の言語を自在に扱う能力	母語以外の言語で述べられた、相手の意見を理解できない	母語以外の言語で述べられた、相手の意見をおおよそ理解できる	母語以外の言語で自分の意見を述べることができる	母語以外の言語での意思疎通に不自由がない
	4 コミュニケーション能力	自分の意見を表現する積極性が足りない	自分の意見を言語・行動で表現できる	自分の意見の意義を、相手に分かるように説明できる	意見の調整と収斂に貢献できる
異分野融合展開力	5 組織やチームに貢献する能力	組織・チームの傍観者にとどまっている	組織・チームの活動に寄与できる	構成員の意見を束ね、成果に導く指導力がある	構成員一人一人の能力を向上させる指導力がある
	6 多文化理解と異分野融合展開力	自分が直面しない現実問題への関心が低い	自分の出身地と異なる環境における現実問題に興味を示す	自分の出身地と異なる環境における現実問題を、自己の問題として捉えることができる	自分と出身国・文化圏が異なる人の意見に耳を傾け、その背景に想像と理解を巡らせることができる
	7 デジタル技術を駆使する能力	デジタルリテラシーへの関心が低い	検索エンジン等のコンピュータ技術を駆使して、情報やデータを収集できる	分析・解析ソフトウェアを利用したコンピュータ技術を駆使して、情報やデータを分析することができる	得られた情報やデータを、思考の深化、課題抽出・解決につなげることができる

オープンバッジ

プログラム修了に応じて、「オープンバッジ」が授与されます。オープンバッジは、国際標準のデジタル証明書です。学生は、取得したバッジを就職活動等の際に履歴書やメールに表示して、自身が修得した能力をアピールすることができます。



地域の課題に取り組む

3つのコース



対象国 タイ・インドネシア

2025年度：
インドネシアで
Spring School
開催予定！

「人口(Population)」「活動(Activities)」「資源(Resources)」「環境(Environments)」に関連する様々な問題を解決し、アジアの発展に主導的な役割を果たすことができるフロンティア人材の育成のため、北海道大学とインドネシア・タイのパートナー大学とが協働で実施しています。

担当教員に聞いた！
PAREコース
の魅力

人口増加と目覚ましい経済成長が進むASEAN諸国とのつながりは今後ますます重要となります。PAREの実習では、河川の水質調査などを通して、地域における人間活動と環境の連環について理解し、課題を見つけ、解決策を考えます。約2週間の実習では、国籍や専門の異なる学生同士とのグループワークにより、学生同士の交流や友情、教員とのネットワークができて、将来への大きな糧となるでしょう。



対象国 インド

インドにおける輸送システムと社会インフラ構築及び環境に関する種々の課題について自らの専門性を活かしつつ、課題解決のために協力しあうチーム型国際協働研究力を有する人材の育成を目指しています。北海道大学とインドの最高峰に位置するインド工科大学3校で実施しています。

担当教員に聞いた！
STSIコース
の魅力

STSIコースでは、単独で渡印し受入先のインド工科大学の研究室でプロジェクトを実施するため、研究力・チーム力・コミュニケーション能力が身につきます。渡航する前にはインドの社会や文化を学ぶ授業を履修しますし、渡航先の研究室ではお世話をしてくれる学生がバディとしてサポートしてくれます。世界で活躍するエリートを大勢輩出しているインド工科大学での経験は、今後のキャリアや研究活動に役立つでしょう。



OGGsに参加した学生の所属部局（2022~2024年）

大学院

環境科学院

農学院

生命科学院

教育学院

工学院

経済学院

国際感染症学院

国際食資源学院

文学院

学部

経済学部

工学部

農学部

※早期履修可能な本学大学院に進学予定の学部4年生のみ参加できます。



対象国 ブルガリア・フィンランド・スウェーデン・アメリカ合衆国（アラスカ）

2025年度：
ブルガリア、
フィンランド&
スウェーデンで
実習開催予定！

NJE3コースでは、気候変動や歴史文化の多様性など、地球規模の問題が集積する北方圏を対象として、「環境評価」「文化的多様性」「土壌と生産」「地域資源開発」「防災管理」などの重要課題を扱います。これらの分野横断的な学修を通じて、つながり合うことで得られる複合的・総合的な観点を持った地域専門家の育成を目指しています。

担当教員に聞いた！
NJE3コース
の魅力

北海道で学び研究する皆さんにとって、寒冷地域である北方圏の特色や課題を知り考えることは、優れて実践的でしょう。北方圏には、気候変動の影響を最も大きく受けやすい北極域や、自己の文化維持が困難な状況に直面してきた先住民、積雪寒冷地域オリジナルの建築デザイン、そして地方都市における人口減少や地域コミュニティの課題などがあります。文理問わず、いずれもフィールド研究を実践してきた教員陣によるプログラムの中で、自分なりの考えを探っていくことが出来ます。北大在学中に北方圏について修得しましょう。



基礎プログラム

参加要件

- 1 各科目の申請からその終了までの期間、北海道大学の大学院に在籍している者。もしくは早期履修可能な本学大学院に進学予定の学部4年生。
- 2 OGGsプログラムの課題に興味を持ち、それらの問題解決に将来貢献する意欲がある学生。
- 3 学業成績が優秀であり、原則、選考時の前年度の成績評価係数(GPA)が2.3/3.0以上であること。
- 4 プログラム参加に十分な英語能力を有しているもの。(英検2級以上、TOEIC:550以上、TOEFL(ITP/IBT):500・61以上、IELTS:5.0以上)
- 5 在学中にプログラムを修了することが可能な者。

修了要件

OGGs各コースが指定する「基礎科目(計3単位)」と、「国際経験科目(各2単位)」合計5単位以上修得すること。



発展プログラム

参加要件

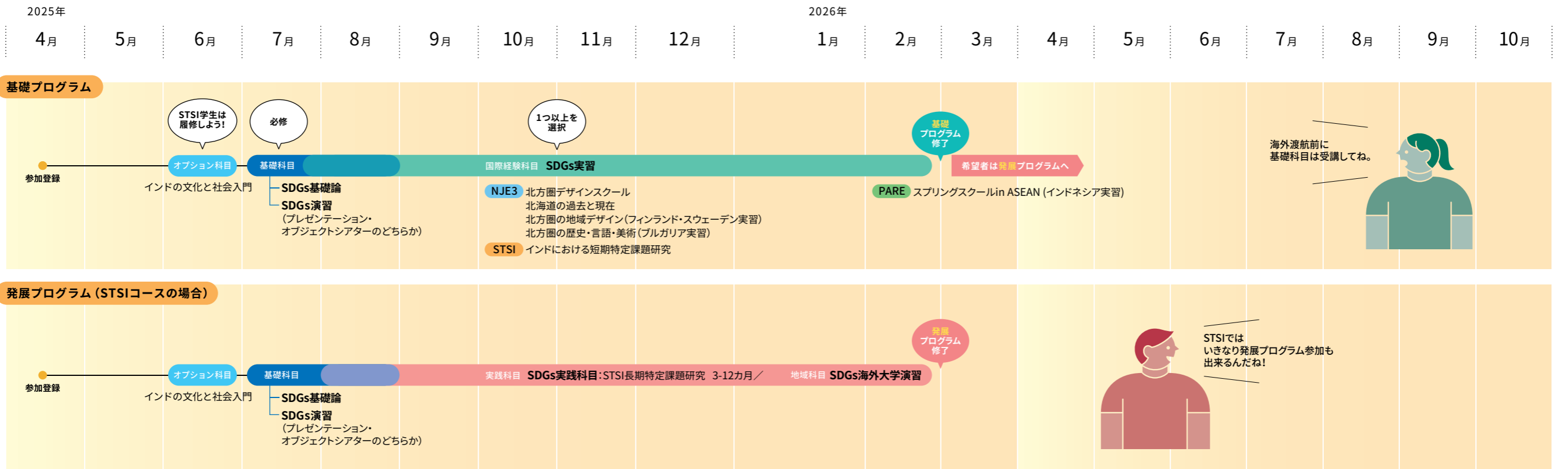
OGGs基礎プログラム修了者
※STSIコース希望者は、「SDGs実践科目:STSI長期特定課題研究」の単位修得を以て「SDGs実習:インドにおける短期特定課題研究」に替えることができます。

修了要件

「地域科目(2単位)」と、「実践科目(2単位)」合計4単位以上修得すること。



OGGsプログラム履修モデル



よくある質問

FAQ

Q. 年度をまたいでの受講は可能ですか。

A. はい、可能です。原則的には在籍中に所定の科目を履修することで修了証を取得できます。ただし、修了認定にかかる時期の海外派遣は出来ませんので、予めご確認ください。

よくある質問

FAQ

Q. 基礎プログラムを修了しないと、発展プログラムには応募できませんか？

A. PAREとNJE3コースでは基礎プログラムを修了しないと、発展プログラムには応募できません。STSIコースでは、基礎プログラム修了せずに、発展プログラムに参加が可能です。但し、基礎科目の履修は必要です。

区分	コース	開講時期	科目名	単位	修了要件
基礎プログラム					
基礎科目	共通	2025年8月5日-8月8日	国際SDGs入門	1	(推奨科目)
		2025年7月7日-7月17日	SDGs基礎論:グローバルな課題認識と国際協働	2	3単位
		2025年6月30日-7月4日	SDGs演習:課題解決に向けた国際共修PBL (プレゼンテーション)	1	
		2025年8月25日-8月29日	SDGs演習:課題解決に向けた国際共修PBL (オブジェクトシアター)	1	
国際経験科目	PARE	2026年2月	SDGs実習:スプリングスクール in ASEAN ※インドネシア実習	2	2単位 (選択必修)
	NJE3	2025年7月22日-7月25日	SDGs実習:北方圏デザインスクール	2	
		2025年9月3日-9月10日	SDGs実習:北海道の過去と現在-石狩・空知の歴史-	2	
		共通講義:2025年9月16日-9月19日 実習期間:2025年9月21日-9月28日※	SDGs実習:北方圏の地域デザイン ※フィンランド・スウェーデン実習	2	
		共通講義:2025年9月16日-9月19日 実習期間:2025年11月18日-11月25日※	SDGs実習:北方圏の歴史・言語・美術 ※ブルガリア実習	2	
STSI	通年の内、自分が設定した1-2ヶ月	SDGs実習:インドにおける短期特定課題研究	2		
オプション科目	STSI	2025年6月9日-6月20日	インドの文化と社会入門	1	
基礎プログラム 必要単位数					計5単位
発展プログラム					
地域科目	共通	通年の内、自分が設定した3-12カ月	SDGs海外大学演習	2	2単位
実践科目	PARE		SDGs実践科目:PARE特定課題研究 (PARE)	2	2単位
	NJE3		SDGs実践科目:北方圏研究特別演習 (NJE3)	2	
	STSI		SDGs実践科目:STSI長期特定課題研究 (STSI)	2	
発展プログラム 必要単位数					計4単位

※実習期間は仮日程ですので、変更になる可能性があります。 ●:国内 ●:海外実習

夏季スケジュール詳細は、17ページへ！

OGGsプログラム 応募方法と資格

プログラム参加の流れ



応募資格

- 1** 各科目の申請からその終了までの期間、北海道大学の大学院に在籍している者。もしくは早期履修可能な本学大学院に進学予定の学部4年生。
- 2** OGGsプログラムの課題に興味を持ち、それらの問題解決に将来貢献する意欲がある学生。
- 3** 学業成績が優秀であり、原則、選考時の前年度の成績評価係数 (GPA) が2.3/3.0以上であること。
- 4** プログラム参加に十分な英語能力を有しているもの。
① 英検2級以上 ② TOEIC:550以上 ③ TOEFL (ITP/iBT) :500・61以上 ④ IELTS:5.0以上
- 5** 在学中にプログラムを修了することが可能な者。

※③前年度の成績評価係数 (GPA) の算出方法

4段階評価 (パターン1)	成績評価				
	—	優	良	可	不可
4段階評価 (パターン2)	—	A	B	C	F
4段階評価 (パターン3)	—	100~80点	79~70点	69~60点	59点以下
5段階評価 (パターン4)	100~90点	89~80点	79~70点	69~60点	59点以下
5段階評価 (パターン5)	S	A	B	C	F
5段階評価 (パターン6)	A	B	C	D	F
成績評価ポイント	3	3	2	1	0

[計算式] (「評価ポイント3の単位数」×3)+(「評価ポイント2の単位数」×2)+(「評価ポイント1の単位数」×1)+(「評価ポイント0の単位数」×0)
総登録単位数

OGGsプログラム 学生支援

経済的支援

下記の資格・条件を満たす学生にJASSO等奨学金が支給されます。
以下に記載されている支援内容と条件を理解し、資格を満たしていれば、特に必要な手続きはありません。

滞在費支援

PAREコース / NJE3コース / STSIコース：月額 8~11万円 ※派遣先により異なります。

資格・条件

- OGGsプログラム参加期間を通して北海道大学に在籍していること。
- 学業成績優秀であり、原則、選考時の前年度の成績評価係数 (GPA) が2.30/3.00以上であること。
- 経済的理由により、自費のみでの派遣プログラムへの参加が困難であること。
- 派遣先大学等所在国・地域への派遣プログラム参加に必要な査証 (ビザ) を確実に取得すること。
- 派遣プログラム終了後、北海道大学に戻り学業を継続する者
- 派遣プログラム参加にあたり、他団体等から派遣プログラム参加のための奨学金を受ける場合、他団体等からの奨学金の支給月額が本制度による支給金額を超えないこと。
※団体等から奨学金を受ける場合、当該奨学金支給団体側においては、本制度の奨学金との併給を認めない場合があるので、当該団体に確認してください。
- プログラムの全日程に参加し、単位を取得すること。
- OGGsがプログラム修了後に開催する報告会等に参加すること。

渡航費支援

詳細はOGGsセントラルオフィスにお問い合わせください。

査証 (ビザ) 取得支援

査証 (ビザ) の取得に必要な留学先からの招聘状、英文推薦状および英文身元保証書等はOGGsセントラルオフィスで支援します。取得にかかる費用 (交通費など) は、自己負担です。なお、必要な書類は、各国の大使館または領事館のホームページなどを確認してください。

<注意事項>

- ・査証は外国政府が発行するものであり、OGGsセントラルオフィスでは査証の発給に係るお問い合わせには回答できかねます。また発行に関しては各自の責任となります。
- ・手続きは予告なく変更になる場合がありますので、必ず各自で滞在先国・地域の公式HP等で確認してください。
- ・外国籍の場合、日本人と手続きが異なり、より時間がかかる場合が多いため、十分に注意してください。

わからないことがあったら
OGGsセントラルオフィスにご相談ください



よくある質問

FAQ

Q. 留学前に海外保険の加入は必須ですか？

A. はい、必須です。
北海道大学の海外実習プログラムは、①~③までの海外保険加入手続きが必要になります。海外旅行保険の始期終期は基本的に自宅を出発してから自宅に帰着するまでとなります。
①学研災加入 ②付帯海学 (学研災付帯海外留学保険) ③J-TAS



OGGsプログラム 科目概要

2025 OGGs Programs Subject Outline



導入科目

国際SDGs入門 2025年8月5日-8月8日

1単位

本科目では、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である『持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)』を取り上げます。ここに示された課題は、環境、資源、エネルギー、健康・衛生から教育、労働、産業、さらには人権や公正性の実現まで、地球社会全体が協力して解決すべきグローバルな課題が網羅されています。MDGsからSDGsへの流れ、CSV経営におけるSDGsの位置づけ、インクルーシブの本質について講義した後、主に途上国でのケースを多数取り上げながら、日本と海外のSDGsの現状の違いについて紹介しながら、自らのどのように取り組むことができるかについて演習を行います。ESG投資、エネルギー問題、環境倫理についても取り上げ、それぞれの関連と地球社会が目指す社会像について対話を行います。

※学部生から参加ができます。



基礎科目 基礎プログラム

OGGs共通 SDGs基礎論：グローバルな課題認識と国際協働

2025年7月7日-7月17日

2単位

日本と3つの地域が協働して実施する教育プログラムであるOGGsの特性を踏まえて、これらの各地域における固有の課題を認識し、そこから世界の共通課題の存在を理解します。また、これらの課題に対して、解決への取組の現状や将来的な方向性を学びます。SDGsあるいは世界の持続可能性の実現に向けて、国際協働による世界の課題解決の方策を考えるきっかけとします。授業は全て英語で行われ、OGGsパートナー校からの学生も参加する共修型の科目です。グループディスカッションの機会もたくさんあります。

- 到達目標**
- ・グローバルイシューに関する基礎的な知識を獲得する。
 - ・多文化理解力を修得する。
 - ・SDGsに貢献する能力を養う。



体験談

SDGs基礎論：グローバルな課題認識と国際協働 参加 農学院修士2年(参加当時) 筒井 路実

普段の研究中心の生活では触れる機会の少ない話題について、専門的に研究している先生方の授業を通じて、新しい言葉や概念、知らなかった社会課題を学ぶことができました。また、先生方の出身地が異なることで、日本人が話す比較的近い英語だけでなく、多様な種類の英語や話し方、さらに共有資料を活用した授業に触れる機会がありました。こうした違いを体験することは非常に興味深く、大いに刺激を受けました。さらに、先生方の授業から得た良い点を、自分が他の場でプレゼンテーションを行う際に参考にさせていただくこともありました。また、授業中には学生同士でディスカッションをする機会が設けられ、それぞれの国の事情や多様な視点を共有しました。同じトピックでも学生のバックグラウンドが異なることで、多彩な意見が飛び交う議論となり、非常に多くの学びを得ることができました。



OGGs共通 SDGs演習：課題解決に向けた国際共修PBL

1単位

Problem Based Learning (PBL)という、グループワークによるアクティブラーニングの教育手法を用いて、学生が主体的に学修する授業です。多様化し複雑化する国際社会が抱える様々な問題の解決を目指すSDGsのトピックをテーマにしてPBLを実施し、学生自らが具体的な課題を抽出・設定し、解決方法を検討する能力を養うことを目指します。加えて、世界各地の留学生が参加し協働してPBLに取り組むことで、国際協働力を育成することも期待されます。

※プレゼンテーションかオブジェクトシアターかどちらかを選択



プレゼンテーション 2025年6月30日-7月4日

授業の様子を動画で確認できます

本科目では、地球規模の課題と解決策の提案をプレゼンテーションします。言語表現に力点を置く発表をグループワークで創り上げていきます。



オブジェクトシアター 2025年8月25日-8月29日

授業の様子を動画で確認できます

本科目では、チェコ在住で世界的に活躍する人形劇師の沢則氏を招へいし、モノ(オブジェクト)に演じさせることを通して演劇的に表現するオブジェクトシアターの創作を通し、言葉を用いない形で地球規模の課題解決を模索します。



体験談

SDGs演習：課題解決に向けた国際共修PBL(オブジェクトシアター)参加

工学部4年(参加当時) 永木 陽久

7月に私はPBLのオブジェクトシアターの授業を受講しました。次の春にインドへ1か月の留学を控えており、留学先では自分の意見や積極性が求められると感じているため、この授業の受講を決めました。授業では、言葉を用いない劇を通してチームで決めたテーマを表現しました。劇では言葉をつかえないため、作る過程では共通認識をとるのに苦労し、「え、この後どう動くの?」という状況を何度も経験しました。その度にチームで話し、劇を作っていました。この授業では言語以上に、表現するときの姿勢、チームの在り方について学びました。陽気であり真剣な姿勢ももつ先生方にも恵まれ非常に良い授業でした。



SDGs演習：課題解決に向けた国際共修PBL(プレゼンテーション)参加

環境科学院 修士2年(参加当時) Zarina Bikmullina

The PBL course provided us with a great opportunity to work with students from different countries and of different backgrounds. I particularly like the idea of a joint class for all programs in the framework of OGGs.

We made a presentation on a narrow topic, so it helped us to focus on a particular problem. The OGGs staffs were so kind to help us organize the speech of a remote participant, and instructors maintained the activity perfectly.

It was a good chance to practice public speaking skills, and all of us had a notable progress in speaking.

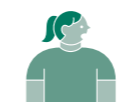


よくある質問

FAQ

Q. いくつか講義がある中で、他の授業と時間が重なってしまった場合は履修できませんか？

A. 原則、すべての講義に出席することが条件ですが、科目によっては事前に申し出いただくことで、オンデマンド等の対応が可能な場合があります。



国際経験科目@北海道 **基礎プログラム****NJE^{SD}** SDGs実習：北方圏デザインスクール 2025年7月22日-7月25日 **2単位**

本実習では、北方圏という寒冷地域の課題に直結する地域開発や建設環境デザインについて、パートナー大学の教員が参画する共同授業を通じて学びます。今年度はスウェーデン王立工科大学(KTH)から省エネルギーや建築設備の専門家である、Ivo MARTINAC教授を招いて講義を提供頂き、スタディーツアー、ワークショップを実施します。

**NJE^{SD}** SDGs実習：北海道の過去と現在 一石狩・空知の歴史 2025年9月3日-9月10日 **2単位**

札幌市および近郊地域は、先住民の生活の痕跡を多く残すとともに、博物館、資料館が随所に設置され、歴史的な遺物、史料の保存も行われています。札幌を中心とする道央地域における先住民の歴史、和人の移民・入植・開拓、戦前戦後の経済発展の足跡を歴史的な資料(モノと文書)を直接見ることを通じて学びます。各博物館・資料館の協力のもとに、英語によるガイドブックを用意するとともに、当日の案内は基本的に英語を用いて行われます。

**体験談**

SDGs実習：北方圏デザインスクール参加

農学院修士1年(参加当時) 奥田 裕紀

北海道をはじめとした寒冷地域の課題が、地域開発や建設環境デザインにどのような影響を与えているかについて学びました。私は建築の専攻でないため、難しく感じられる内容も多くありました。しかし、空間デザインの経緯や床暖房、換気システムの配置など、今まで注意を向けてこなかった視点や考え方が興味深く感じられました。また、グループワークやフィールドワークにおける他学部及び留学生の方との交流を通じて、異なる文化や視点におけるさまざまな意見に触れることができました。視野を広げて多角的な考え方を身につける上で、非常に有意義な経験となったと思います。

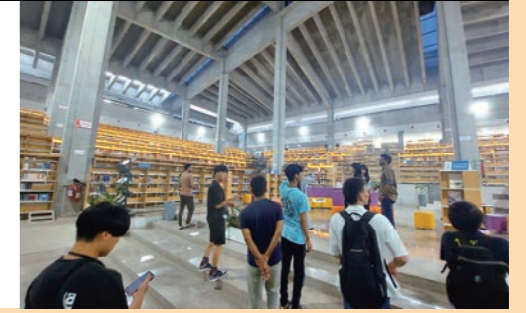
**体験談**

SDGs実習：北海道の過去と現在-石狩・空知の歴史 参加 教育学院博士後期1年(参加当時) 多胡 太佑[尹太佑]

2024年9月に本プログラムに参加し、北海道のさまざまな地域を巡りながら、アイヌ民族のことを含めた北海道の歴史や本州との違いについて学ぶことができました。私は、主に海外で教育を受けたためなのか新たに学んだことが多かったのですが、さらにさまざまな国からの留学生と英語で話し合う中で、その歴史を新たな目線から改めて捉えてみることができました。私は北大で主に大学や学費について学び、研究活動を行っています。大学は、ただ年齢などで限られる特定の人々が一時期だけ通って卒業証書を取得する空間ではなく、社会や政治側の必要に影響されたり影響したりする中で、地域社会の歴史と深く結びついてきた存在だと思っています。北海道大学(旧札幌農学校)と北海道は、どの大学と地域よりもその面が明らかな代表例だと思います。その北大の本プログラムで北海道の歴史を学べたことは、大学に身を置き、大学を研究するものとして大切な経験でした。

国際経験科目@インド **基礎プログラム****STSI** SDGs実習：インドにおける短期特定課題研究 通年の内、自分で設定した1-2ヶ月 **2単位**

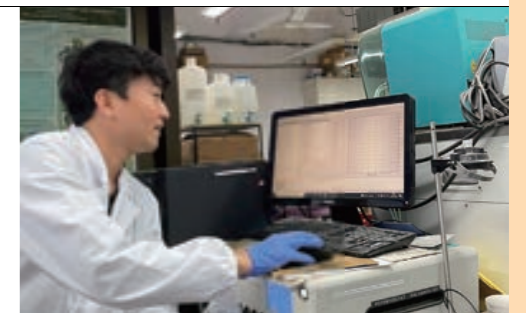
本実習では、学生が単独でインド工科大学(IIT)の受入研究室に入り、具体的なテーマ設定を行い、課題解決を図る研究・調査活動を行います。本実習の目的・ねらいは、研究経験の少ない学生が、チームワーク型研究プロジェクトにおいてメンバーとして参画して、国際チームワーク型研究力を習得することです。研究グループの指導教員およびリーダー学生との英語によるディスカッションを通して、国際的な研究力の基礎を養います。

オプション科目@北海道 **基礎プログラム****STSI** インドの文化と社会入門 2025年6月9日-6月20日 **1単位**

本授業では、インドでの長期滞在を目標として、インドの言語と文化の基礎を学びます。インドでの日常生活や学修生活に有用なヒンディー語の基礎を習得します。さらに、インドの多様な文化を理解し、日本とインドの交流促進に役立てます。
※本講義はOGGsカリキュラムにおいて必修ではありませんが、本学のSTSIコース履修者には派遣前教育として履修を強く推奨しています。

実践科目@インド **発展プログラム****STSI** SDGs実践科目：STSI 長期特定課題研究(STSI) 通年の内、自分で設定した3-12ヶ月 **2単位**

具体的なテーマ設定を行い、課題解決を図る研究・調査活動を行います。本実習の目的・ねらいは、ある程度の研究経験を有する学生が、現地においてSTSI構築への取り組みの現状に関する講義を受け実習することを通して、チームワーク型研究プロジェクトにおいてリーダーとして参画し、国際チームワーク型研究力を向上させることです。

**体験談**

SDGs実践科目：STSI長期特定課題研究参加

工学院修士1年(参加当時) 福井 千菜美

4ヶ月のインドでの生活はとても充実した日々でした。研究ではインドの交通問題を扱いました。実際に現地の交通問題を見ることで、地域の特徴を理解したアプローチが必要であることに気づきました。他にも、友達の家遊びに行きDiwaliの儀式や知り合いの結婚式にサリーで参加するなど、インド文化の体験もさせていただきました。特に同じ研究分野を専門とする人との繋がりを作ることができたことは自分にとって財産であり、国際学会での久しぶりの再会では話が弾みました。渡航前は英語が苦手でしたが、今では話すことへの恐怖心が減り、日本でも海外からの友達を作ることができるようになりました。怖くてもやってみればなんとかなる!そう思うようになった経験でした。



NJE³ SDGs実習：北方圏の地域デザイン

共通講義:2025年9月16日-9月19日 実習期間:2025年9月21日-9月28日※

2単位

北海道および北方圏諸国の寒冷地域都市建築デザインや技術の概要を修得することを目的とした国際経験科目です。フィンランドの協定校であるヘルシンキ大学やアアルト大学での実習やヘルシンキ、ストックホルム市街地の近現代建築・美術館・博物館の見学により北欧の建築文化に関する知識を効果的に得ることができます。OGGs-NJE3のもう1つの国際経験科目である「北方圏の歴史・言語・美術」と事前に北大にて共通講義を実施します(2025年9月16日-9月19日)。共通講義では実際に現地を訪れる前の基礎知識として、様々な専門をもつ先生方が文理融合の講義を提供します。



スケジュール(予定)

※変更の可能性あります

2025年9月21日	ヘルシンキ着 オリエンテーション
9月22日	ヘルシンキ大学との共同プログラム (Hyytiälä・Forest・Station等) (タンペレ)
9月23日	ヘルシンキ大学との共同プログラム (タンペレ)
9月24日	アアルト大学・VTTとの共同プログラム、ヘルシンキ市内エクスカージョン (アアルトスタジオ、Amos・Rex、デザイン美術館等)
9月25日	ヘルシンキでのエクスカージョン後ストックホルム移動
9月26日	スウェーデン王立工科大学 (KTH) との共同プログラム
9月27日	ストックホルム市内エクスカージョン
9月28日	ストックホルム市内エクスカージョン後帰路



体験談

SDGs実習：北方圏の地域デザイン参加

工学部4年(参加当時) 松下 鯉太郎

土地の風土や営みと建築・都市のデザインの関連性に関心があり、北海道と気候条件が類似する北欧について学びたいと思い、このプログラムに参加しました。人文学と建築分野の講義や見学、ディスカッションを通じて、北欧の歴史や文化を深く学び、土地の特徴を活かした環境や文化に調和するデザインの重要性を実感しました。特にヘルシンキ中央図書館「Oodi」では、屋内空間が市民の「リビングルーム」として機能している点は印象的でした。冬の厳しい寒さや積雪に対する屋内オープンスペースや、短い夏を最大限に活かす屋外空間・夏の家といった文化・工夫は、北海道の建築や都市を考える上でも役立つと感じています。この経験は視野を広げ、大学院での研究や設計活動に新たな視点を与えたと考えています。



NJE³ SDGs実習：北方圏の歴史・言語・美術

共通講義:2025年9月16日-9月19日 実習期間:2025年11月18日-11月25日※

2単位

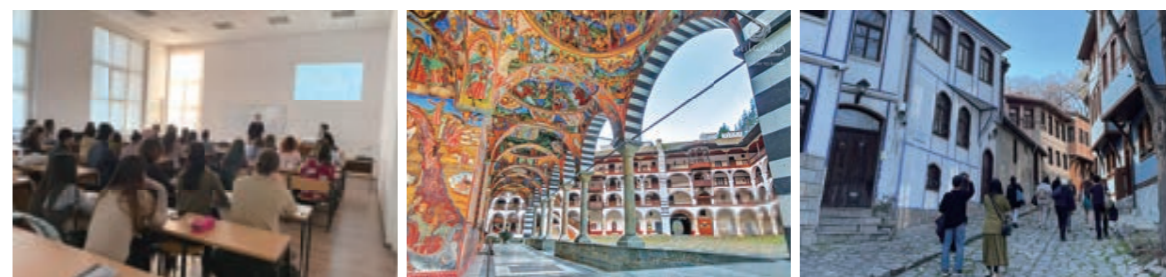
ブルガリア・ソフィア大学での実習を通じて、北方圏(主にブルガリアおよびスラブ語圏)の言語・文化・歴史について学ぶプログラムです。現地の博物館、美術館、建造物を見学したり、日本・ブルガリア双方の教員による共同講義を受講するほか、ソフィア大学学生との共修機会も多く予定しています。これらを通じて、受講者の学問上の国際性や学際性を育み、各自の専門分野の研究の深化に役立てることを目的としています。OGGs-NJE3のもう1つの国際経験科目である「北方圏の地域デザイン」と事前に北大にて共通講義を実施します(2025年9月16日-9月19日)。共通講義では実際に現地を訪れる前の基礎知識として、様々な専門分野の先生方が文理融合の講義を提供します。



スケジュール(予定)

※変更の可能性あります

2025年11月17日	到着
11月18日	在ブルガリア・日本大使館を表敬訪問(ブリーフィング) ソフィア大学付属博物館、中央図書館の見学
11月19日	ソフィア大学にて共同講義① ソフィア市内視察 (アレクサンドル・ネフスキ大聖堂、聖ソフィア聖堂、セルディカ遺跡、セントラル・ハリ市場などの見学)
11月20日	ソフィア大学にて共同講義② 市内博物館の見学①(国立美術館・国立民俗博物館) 国立オペラ劇場にて観劇
11月21日	日本語学科の授業およびクラブ活動への参画・見学 日本・ブルガリア双方の学生による発表会
11月22日	国立歴史博物館、世界文化遺産・ボヤナ教会の見学
11月23日	校外研修:プロヴディア市(古代ローマバシリカ建築跡地の博物館、古代ローマ劇場・コロセウム、民俗博物館、旧市街等)
11月24日	校外研修:世界遺産・リラ修道院の見学
11月25日	市内博物館の見学②(国立考古学博物館・国立自然史博物館) 総括
11月26日	帰路



体験談

SDGs実習：北方圏の歴史・言語・美術参加

工学院修士1年(参加当時) 江藤 優太

私が参加したこの授業では、ヘルシンキ大学(フィンランド)とソフィア大学(ブルガリア)を訪問しました。幸運にも北欧と東欧という全く異なる文化背景を持つ二つの国を一度に訪れることができ、同じヨーロッパ内でも、気候・街の雰囲気・人・文化などヨーロッパの多様性を直接肌で感じることができました。一方授業では、現地での講義や博物館・世界遺産へのExcursionなど日本では体験できない貴重な経験をたくさんすることができました。さらに親睦会や文化交流会などフィンランド・ブルガリア・中国など国籍や文化背景が異なる学生と楽しく交流できる機会がたくさん設けられており、現地の文化を五感で感じることができました。この出会いと交流は、一生忘れられない思い出です!!



SDGs実習：スプリングスクール in ASEAN 2026年2月

2単位

「土地、水、エネルギー資源の持続的利用と管理及び食料安全保障」をテーマとした分野横断的な実習パート（講義、フィールドワーク）および演習パート（グループディスカッション、プレゼンテーション）を約2週間の集中講義形式で行います。使用言語は英語で、北大の先生方とパートナー校の先生の講義を受けることができます。

ASEANにおける諸問題（衛生・栄養状態、環境問題、化石エネルギー・金属・水、土地、海洋資源利用）の実情を把握・評価し、解決策を提案する能力を身につけることを目指しています。講義においては、現地の現状、調査方法、資源管理、現地調査・サンプル取得方法、サンプル分析方法について学ぶことができ、実習では、サンプル取得、分析、解釈を行います。多国籍のメンバーで構成されたグループワークを通じて、国、文化、専門分野の異なる学生と英語で討論する能力、異なる意見を整理し、まとめる能力を身につけることができます。



スケジュール [参考：2024年度スケジュール(タイで実施したケース)]

2025年2月9日	到着
2月10日	オープニングイベント 現地文化体験 キャンパスツアー、アイスブレイキング カントリープレゼン(参加者の出身国ごとにプレゼン発表)
2月11日	【講義①～③】Concept of sustainability and Goals of SDGs フィールドワークの説明
2月12日	採水①(下流) Phra Chulachomklao (Naval Base) 採水②(中流) Thammasat University Thaprachan Campus
2月13日	【講義④～⑥】
2月14日	採水③(上流) Wat Niwet Thammapravat Ratchaworawihan (アユタヤ) アクティビティ アユタヤ遺跡 - Wat Chaiwatthanarama, Wat Mahathat
2月15日	【講義⑦～⑨】
2月16日	休日
2月17日	中間プレゼン
2月18日	【講義⑩～⑫】
2月19日	【講義⑬～⑮】
2月20日	ファイナルプレゼン準備
2月21日	ファイナルプレゼンテーション プレゼンテーション表彰 集合写真、クロージングイベント
2月22日	帰路



体験談

SDGs実習：スプリングスクール in ASEAN参加 経済学部4年(参加当時) 木下 立也

開発経済学を専攻しており、河川と流域の産業、住民生活とのかかわりについて関心があったことから、参加を決定しました。また、自らデータを収集する経験をしてみたいと思ったことも理由の1つです。スプリングスクールを通じて、特定の分野に特化した専門性よりも、分野横断的な知識や異文化理解、グループワークスキルを身につけることができました。異なる背景や専攻を持つメンバーと共通のテーマについて議論し、試行錯誤する経験は今後の研究の糧になると思います。調査活動において“学部生や院生”、“文系や理系”といった垣根はありません。自分の関心分野とプロジェクトテーマを結びつけ、どう貢献できるかを考えるいい機会になると思います。



OGGs 基礎プログラム 夏季スケジュール 2025

(1学期)

TIME (JST) 1...8:45 - 10:15 2...10:30 - 12:00 3...13:00 - 14:30 4...14:45 - 16:15 5...16:30 - 18:00

	6月9日(月)	6月10日(火)	6月11日(水)	6月12日(木)	6月13日(金)
1					
2					
3					
4					
5	インドの社会と文化入門		インドの社会と文化入門		
	6月16日(月)	6月17日(火)	6月18日(水)	6月19日(木)	6月20日(金)
1					
2					
3					
4					
5	インドの社会と文化入門		インドの社会と文化入門		
	6月23日(月)	6月24日(火)	6月25日(水)	6月26日(木)	6月27日(金)
1					
2					
3					
4	SDGs演習(PBL:プレゼン)		SDGs演習(PBL:プレゼン)		SDGs演習(PBL:プレゼン)
5					
	7月7日(月)	7月8日(火)	7月9日(水)	7月10日(木)	7月11日(金)
1					
2					
3					
4					
5	SDGs基礎論(グローバル)				
	7月14日(月)	7月15日(火)	7月16日(水)	7月17日(木)	7月18日(金)
1					
2					
3					
4					
5	SDGs基礎論(グローバル)				
	7月21日(祝)	7月22日(火)	7月23日(水)	7月24日(木)	7月25日(金)
1	休日	北方圏デザインスクール(NJE3)			
2					
3					
4					
5					
	7月28日(月)	7月29日(火)	7月30日(水)	7月31日(木)	8月1日(金)
1					
2					
3					
4					
5					
	8月4日(月)	8月5日(火)	8月6日(水)	8月7日(木)	8月8日(金)
1					
2					
3					
4					
5					
	8月11日(祝)	8月12日(火)	8月13日(水)	8月14日(木)	8月15日(金)
1					
2					
3					
4					
5					
	8月18日(月)	8月19日(火)	8月20日(水)	8月21日(木)	8月22日(金)
1					
2					
3					
4					
5					
	8月25日(月)	8月26日(火)	8月27日(水)	8月28日(木)	8月29日(金)
1					
2					
3					
4	SDGs演習(PBL:シアター)	(各グループ作業 必要に応じて)	SDGs演習(PBL:シアター)	(各グループ作業 必要に応じて)	SDGs演習(PBL:シアター)
5					
	9月1日(月)	9月2日(火)	9月3日(水)	9月4日(木)	9月5日(金)
1					
2					
3					
4					
5					
	9月8日(月)	9月9日(火)	9月10日(水)	9月11日(木)	9月12日(金)
1					
2					
3					
4					
5					
	9月15日(祝)	9月16日(火)	9月17日(水)	9月18日(木)	9月19日(金)
1	休日	共通講義(NJE3) SDGs実習:北方圏の地域デザイン / SDGs実習:北方圏の歴史・言語・美術			
2					
3					
4					
5					

よくある質問

FAQ

Q. 修士2年で3月に修了するのですが、スプリングスクールに参加できますか？

A. 単位認定ができないため、修了直前(3月修了の場合は2月以降)の海外実習科目への参加は、認められていません。

